

じどうかん むし しんぶん
はかた児童館 カブト虫新聞

5月

5月14日、えひめこどもの城から10匹のカブト虫のよう虫がやってきた。体長約7センチの大きなよう虫だ。「でかっ！」と子どもたちはきょうみしんしん！ さっそくせわ係をばしゅうし、まずはカブト虫の家作り。大きな水そうに、ふよう土を入れたよ。ふよう土は、よう虫のすみかであり、えさであり、大切なもの！ かんさつしやすいように、1匹だけコーヒーのビンに入れたよ。せわ係の子たちは、家からくち木を持ってきてくれたり、毎日土に水をやったりと、みんなねっしん。元気なせい虫になりますように。



6月

カブトムシの家のふよう土がどんどんへってきた。それは、よう虫たちがたくさんえさを食べているということ。たくさん食べれば、フンもたくさんするし、



えさもへってしまうので、新しいふよう土とこうかんしてやりました。ふだんは土の中にもぐっているの、元気なすがたを見ることができて安心したよ。6月も終わりに近づいてきたころ、びんの中のよう虫がサナギになっていたよ！ 体は茶色くなり、角が生えているので、どうやらこの子はオスだ。子どもたちも大よろこび！ せい虫になるのが楽しみ (^v^)

7月

7月12日、サナギがついにせい虫になったよ！ まだ体はやわらかくてほとんどうごかない。もうしばらくせわ係の子たちとそっと見守ることにした。カブトムシの家からも、つぎつぎとせい虫が出てきた。でも、10匹いたよう虫のうち、せい虫として出てきたのは、たったの3匹で全部オス。のこりは土の中でしんでしまったり、すきまからにげてしまったようだ。生き物を育てることはやっぱりむずかしいということを手伝った。そんな中、カブト虫を飼っている子がメス1匹をじどうかんにわけてくれた。ありがとう！ 元気に育ててくれた3匹と、もらった1匹を大切に育てていこうね。



8月

子どもたちは、夏休み真っただ中でパワー全開。4匹のカブトムシたちも元気いっぱい。みんながいる昼間は、あまりうごき回らないけど、手でつかむと足をジタバタさせたり、うでをのぼっていったりと、とっても元気。みんなが夕方帰る前にあげたエサは、朝来て見たら空っぽ！！ カブト虫はあまりさわりすぎるとしんでしまうので、少しでも長く、多くのおともだちに見てもらうために、あまり家の外に出さないことにした。1匹もらったメスが卵をうみ、

よう虫が生まれたよ！ そして、8月20日ですべてのカブトムシのせい虫が、いなくなった。また来年元気で会おうね。

